



定時制だより

H31. 3. 5

桐生工業高等学校
HPにも掲載

校内親善競技大会が行われました



1/30(水)、桐生スターレーンにおいて恒例のボウリング大会が行われました。皆、若さに任せて豪快にボールを投げ込み、ストライクでもガターでも大いに楽しみ、爽快でした。ゲームの後の表彰式には先生方から沢山のラッキー賞が用意され、こちらも盛り上がりました。長期欠席者以外の欠席は2名と出席率の高い、楽しい1日となりました。

【結果】個人戦：1位 鳥羽 翔真(3年)

2位 橋本 拓海(2年)

3位 須藤 雅貴(3年)

団体戦優勝：3年生

「4年間の総まとめ」課題研究発表会

〈研究テーマ〉

折りたたみ機の製作

スケートランプの製作

オルゴール箱の製作

木札の製作

本棚の製作

ベンチの製作

サバゲーについて

〈発表者〉

新井優斗・神山桂汰・川井龍也

稲毛 諒

福本杏奈

中村政太

阿部正輝

岩沼翔太・川名翼・渡辺悠二

大沢力也・尾上祐也



1/26(金)、課題研究の成果を4年生が全校生徒に報告しました。一人一人が自分の意志でテーマを設定し作成した、立派な作品が披露されました。パワーポイントによる発表もしっかりとしたもので、4年間のまとめにふさわしい発表会でした。

感謝の気持ちを込めた予餞会



4年生への餞(はなむけ)として、2/9(金)に予餞会が行われました。各学年と生徒会、教員の出し物の後、スライドで卒業生4年間の軌跡をたどり、最後は、卒業生一人一人のことばで締めくくられました。在校生たちの入念な準備の甲斐あって、楽しく温かい予餞会となりました。

明るい4年生らしく、今年は涙は見られませんでした。4年生の口からは感謝の言葉や卒業後の決意が力強く語られました。卒業生の皆さんの新天地でのご活躍をお祈りいたします。

褒賞授与式から

2/28 (木)、4年生の褒賞授与式が行われ、在学中の活躍を称えて以下の褒賞が授与されました。

- ・学科賞 「岩沼翔太」
- ・体育賞 「中村政太」
- ・産業教育振興会中央会長賞 「岩沼翔太」
- ・群馬県産業教育振興会会長賞 「渡辺悠二」
- ・全国高等学校定通制教育振興会会長賞 部活動功労者「中村政太」
生徒会活動功労者「大沢力也」
- ・群馬県高等学校定通制教育振興会会長賞 「稲毛 諒」
- ・桐生地区高等学校定通制教育振興会会長賞 「福本杏奈」
- ・関東甲信越地区機械工業教育研究会会長賞 「岩沼翔太」



卒業式



【大沢君の答辞】 本日は、私たち卒業生のために、このような盛大な式を開いていただき、一同深く感謝しております。また、校長先生をはじめ、来賓の方々、在校生代表の方から、心温まるご祝辞、激励の言葉を頂戴し、お礼の申し上げようもございません。

私達は平成27年4月、桐生工業高等学校定時制に入学しました。私は中学校を卒業する年に本校の定時制を受験しましたが、試験には落ちてしまいました。お恥ずかしい話ではありますが、当時の私はとても素行が良いとは言えず、中学校に在籍していた当時から、何度か問題を起こしては先生や警察の方々に指導・補導をされていました。受験に落ちるのも納得できました。

そこから1年間、社会人として生活していました。住宅などを取り壊す解体工の仕事をしなが、相も変わらず友人達と夜な夜な遊び回っていました。ですが、仕事を通して大人の人達の話をしているうちに、そして周りの同級生達が必死に勉強しているのを見ているうちに、「このままではまずい」と思いはじめました。そして私は再度高校受験をすることを決めました。周りに笑われたり、無理だと言われたりしましたが、桐工定時制に無事に合格しました。入学する際に私は今まで数々の人達に迷惑をかけたこと、お世話になったこと、そして支えてもらったことを思い出し、途中で辞めずに卒業することを決心しました。

中学三年生になってから学校には殆ど行ってなかったこともあって、高校に入って最初に感じたのは、教室という空間で授業を受けるのが久しぶりで新鮮だ、ということでした。入学するにあたって、今まで勤めていた会社を辞めたので、入学後から2、3ヵ月ほどで自宅の近くにある工場へ入社しました。やはり初めは、学校と仕事の両立は難しく感じ、体が慣れませんでした。仕事が終わって家に帰り、支度をして学校に行くはずが、疲れて家で寝てしまったことが何度も何度もありました。どうしようもなく辛いと思ったこともあります。ですが、学校を辞めたいとは一度たりとも思ったことはありません。別に辞めたところで誰も何も言わなかったでしょう。しかし私がここまで辞めずに続けてこられたのは、「高校を卒業したい」という自分の意志と、「途中で辞めない」という強い覚悟、それから一番大事な『周りの人達からの支え』があったからだと思います。再度、高校の受験を決めた時に、笑って無理だと言っていた友人達も、高校に入ってから頑張る自分の姿を見て、「途中で辞めたりするなよ」「何年かかってもいいから必ず卒業しろ」と言ってくれました。私は友人達のこの言葉に支えられ、今日まで頑張ることができました。

そんな私の友人達の多くは、家庭環境が複雑だったり、良くなかったりします。そして、私の家庭も例外ではなく、幼い頃より私は父子家庭で育ちました。そしてそれは定時制でも同じで、定時制の生徒は家庭や本人が何かしらの事情を抱えている場合が大半です。話を聞けば私より深刻なケースもざらにありました。ですが皆そのような事情を抱えているにも関わらず、弱音の一つも吐かずに四年間、仕事と学校に通い、頑張ってきました。ここまで来る途中、留年して一つ下の学年に落ちてしまった者や、学校を辞めてしまった者もいます。友人がいなくなってしまう、辛い思いをした者もいるでしょう。今日、定時制を卒業する私を含めた12名は、このような数々の事情を抱えながら、同じ境遇の仲間達と幾多の障害を乗り越えてきました。そして今日、晴れて桐工定時制を卒業します。人によっては長く辛い高校生活だったと思います。皆さん本当にお疲れ様でした。これからは、支えて下さった方々の教えを守り、社会貢献に努めることを誓います。在校生の皆さんも、私達と同じ「卒業」という日を迎えられることを祈ります。

最後に、長い間のご指導に心より感謝を申し上げますとともに、桐生工業高等学校の、今後の益々の繁栄をお祈りして、答辞と致します。

平成31年3月1日

群馬県立桐生工業高等学校定時制 工業技術科 卒業生代表 大沢 力也